

平成 28 年 10 月 4 日

速報：益田川下流域における底生貝類調査

益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織

調査目的

平成 28 年度「水産多面的機能発揮事業」の一環として、これまで岸付近での底生生物調査や採苗調査で生息を確認できなかったヤマトシジミをはじめとする益田川下流域の貝類や甲殻類を採捕し、当該水域の生態系を把握するための資料とする。

調査概要

調査日時：平成 28 年 10 月 1 日

調査場所：益田川最河口部から大元橋上流まで（図 1 参照）

実施者：大賀亮（益田蛤の会）、佐々木隆志、齋藤遼（アンダンテ 21）

調査方法

3m の柄の先に爪付きのたも網（目合 2mm）を付けた採取器（シジミハンター300）を用いて、船上から調査区域内の川底の砂泥を採取し、その中にいる生物を観察した（図 3）。



図 1. 調査区域（大元橋上流～最河口）



図 2. 採取用具



図 3. 採取の様子

調査結果

月見橋より上流では、これまでの底生生物調査で確認されているゴカイ類やヨコエビ類以外の生物は確認されなかった。

月見橋下流～最河口部の範囲において、新たに確認された種は以下の通りである。また、当該生物が採取された箇所の地図を図4に、生物の写真を図5に示す。ヤマトシジミの生体は確認されなかった。

① ホトトギスガイ *Musculista senhousia*

確認個体数：多数、採取地点：1～7、生体の確認：有

川底の砂礫を足糸にくっつけ、その塊の中に棲む。ヤマトシジミと生息域が重なることが多い。

② シズクガイ *Theora fragilis*

確認個体数：8、採取地点：3～6、生体の確認：無

酸素の欠乏にたいへん強く、湾の奥のもっとも環境の悪い水質のところへすむ。

③ ハザクラガイ *Psammotaea minor*

確認個体数：4、採取地点：2～4、生体の確認：有

河口部の汽水域に棲み、ヤマトシジミと生息域が重なることもある。

④ アサリ *Ruditapes philippinarum*

確認個体数：2、採取地点：2、3、生体の確認：有

汽水域にも棲息するが、ヤマトシジミよりも高い塩分濃度を好む。

⑤ アラムシロ *Reticunassa festiba*

確認個体数：1、採取地点：3、生体の確認：有

河口部の汽水域や干潟に生息する小型の巻貝。二枚貝を捕食する

⑥ コメツブツラガイ *Didontoglossa decoratoides*

確認個体数：1、採取地点：4、生体の確認：有

干潟や内湾の砂泥地に棲息する円筒状の殻をもつ貝。



図4. 月見橋下流の採取地点



① ホトトギスガイ



② シズクガイ



③ ハザクラガイ



④ アサリ



⑤ アラムシロ



⑥ コメツブツラガイ

総評・考察

ヤマトシジミの生体は本調査においても確認することは出来なかったが、新たに6種の貝類を確認することが出来た。

月見橋より下流では、ホトトギスガイが多く確認されたことから、水質や溶存酸素の点ではヤマトシジミの生息条件を満たしているが、同時にアサリやアラムシロが確認されており、塩分濃度がヤマトシジミの好む濃度よりも高いと考えられる。

また、月見橋より上流では、底質が砂利や硫化水素を含んだヘドロとなり、ヤマトシジミ及びそれ以外の二枚貝の生息にも適していない可能性があることが分かった。

以上の結果より、ヤマトシジミの好む塩分濃度と底質の条件がそろった場所が、当該水域に見られないことが、ヤマトシジミの棲息を確認できない原因であると考えられる。

参考資料： 日本近海産貝類図鑑 編著：奥谷喬司 刊：東海大学出版会